

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

知的障がい支援学校として、児童生徒一人ひとりの障がいや発達の状態に応じた、最も必要で適切な教育のできる学校をめざす。

1 「笑顔きらめく 元気な学校」

基礎的・基本的な事柄を大切にし、達成感を積み上げることで、児童生徒の自己肯定感・自尊感情を育てる。

2 「君の得意を見つけ 伸ばそういいところ」

児童生徒一人ひとりの障がいの状況を的確に把握し、適切な支援を行うため「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、保護者や関係機関と連携し教育活動を展開する。

3 「つながる心 つなげよう未来へ」

児童生徒会活動を通じ、同年齢・異年齢間の交流を図る。

児童生徒の社会的・職業的自立に向け、小学部段階から個々の発達に応じたキャリア教育を進める。

2 中期的目標

1 一人ひとりの可能性を伸ばす学校

(1) 教員一人ひとりの授業力を高め、「自立活動」の観点を含めた授業研究をする学校。

※「授業」を見直し、三カ年計画で「摂津支援の授業 STANDARD」を確立する。

※3年後に「自立活動と関連した教材集」等の成果物をまとめる。

(2) 自閉症スペクトラムや発達障がいのある児童・生徒の特性と発達段階を踏まえた指導内容・方法を研究する学校。

(3) すべての児童生徒の連続性・系統性のあるキャリア教育を充実させる学校。

※小中高と連続性のあるキャリア教育の継続及び発展。

※高等部卒業時の就職内定率 30%以上を維持する。

2 地域とともにある学校

(1) 地域支援センター校として巡回相談や支援教育に係る情報発信をする学校。

※巡回相談や情報発信を通じ、地域の小・中学校の支援学級担任と顔の見える関係になる。

(2) 地域における障がい理解を推進する学校。

※地域行事に摂津支援学校の参画が定着し、地域の方が学校に来られる機会が増える。

※地域行事や催しに課外活動の出演要請がくる。

(3) 「学校教育自己診断」及び、学校協議会からの助言・提言を踏まえた教育の質と内容の向上をめざす学校。

※平成 27 年度は「保護者向け学校教育自己診断」全 30 項目中、20 項目が 90%以上の肯定率であった。平成 30 年度には、25 項目以上において 90%の肯定率とする。

3 安全・安心で居心地のよい学校

(1) 人権を大切にする学校。

※人権尊重に基づいた指導に関する「学校教育自己診断」において、平成 27 年度は教職員の肯定率は 91%で保護者の肯定率は 89%であった。平成 30 年度には、双方とも 95%以上の肯定率とする。

(2) 児童生徒会活動が活発な学校。

※児童生徒会活動や行事が活性化し、児童生徒が自分たちでつくりあげた行事だという意識を持つ。

(3) 施設設備が安全できれいな学校。

※児童生徒による校内の「花いっぱい」活動と地域への植栽活動の継続。

(4) 防災マニュアルと防災教育が充実した学校。

※多様な状況を想定した事業継続計画 (BCP) の策定。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>今年度の学校教育自己診断は、学校協議会での意見などを参考にし、平成27年度に行なったものと大きく質問項目などは変えずに行なった。昨年度は回収率が低く再度呼びかけを行い、平均して74.3%であったが、今年度は呼びかけを行なわなくても72.3%であった。教職員からの回収率は100%を維持している。</p> <p>平成28年度も、全体を通して肯定的回答が多数を占めており、否定的回答が肯定的回答を上回った項目はない。保護者からの回答については昨年度と同様に全30項目中、20項目が90%以上であった。</p> <p>しかし、児童生徒と教職員からの回答では、昨年度と比べて肯定的回答が大幅にダウンした項目があった。児童生徒からは「交流学习について」教職員からは「学校運営について」の項目でダウンしており、教育課程を見直すことと、管理職と教職員がもっと意見交換できるような職場にすることを、今後の課題として取り組む必要がある。</p> <p>昨年から引き続き否定的回答がめだつ項目は「学校ホームページについて」と「ゆとりと潤いのある教育環境」である。「学校ホームページについて」はより一層の充実を図るために、総務部情報Gの重点課題として取り組む。「ゆとりと潤いのある教育環境」は、毎年の児童生徒増によって年々厳しい教育環境になっていくことが現実にある中で、昨年と比べて否定的回答が2%増でとどまっていることから、教職員は限られた環境の中でも学習活動を工夫するなどの努力をしていることがわかる。</p> <p>また、保護者からの意見で多かったのは、教職員の「児童生徒に対する厳しい指導」についてであった。教職員と保護者の連携が足りていないことが原因と考えられる。保護者と情報を共有し、保護者の理解と協力のもと教育活動を展開することと、人権意識の高い教員集団を形成していくことに日々努力が必要である。</p>	<p>第1回 (6月27日)</p> <p>○今年度の学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災においては摂津市だけでなく周辺地域とも連携する必要がある。 ・高等部卒業後の就職について、定着率を上げるためにも、在学中に適性を見極める必要がある。 <p>○今年度の使用教科書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保健」の教科書の選定を検討して欲しい。 <p>第2回 (11月7日)</p> <p>○本校教職員研修の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業見学は必要に応じて教員同士が見合える環境をつくるべき。またフィードバックしてより「いい授業」をめざしてほしい。 <p>○各学部より校外学習・宿泊学習の取り組みについて報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫した「全体計画」を作成していることはとても良い。児童生徒の成長の過程がわかりやすかった。 <p>○学校教育自己診断の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と項目を変えず、経年変化をみるのが良い。 ・「PTA活動に参加する」を「PTA活動に協力する」に変えると教職員が答えやすいので変更してほしい。 <p>第3回 (2月22日)</p> <p>○学校教育自己診断の結果報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見は断片的に見た部分について記述されていることも多いが、教職員の言葉遣い、叱り方、教員同士の連携に対して書かれた意見は重要視すべきである。 ・学校長のリーダーシップに関しては来年度の診断結果に期待する。 <p>○授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率がすこぶる悪い点については、学校の立地条件に理由があると想像できるが、提出方法や質問事項を工夫して、より意味のあるアンケートにしていく必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 一人ひとりの可能性を伸ばす学校</p>	<p>(1) 授業力向上 ア「いい授業」とは。 イ「自立活動」の研究</p>	<p>(1)ア-1 ア 今年度の研修テーマを「授業」とし、外部講師による指導助言から、教員が考える「いい授業」というものをまとめる。ボール運動の授業について研究する。 (→研究研修部、全員)</p> <p>ア-2 「支援学校におけるボール運動の試み」としてラグビーボールを用いた運動学習を行い、コミュニケーション能力の向上をめざす。 (→高等部)</p> <p>イ-1 「自立活動」に関する教材・教具・取り組みの内容を収集し、どうまとめるかが適しているかを研究する。 (→研究研修部、全員)</p> <p>イ-2 「自立活動」に関する外部講師招聘による校内研修を行い知的障がい教育における自立活動の理解を深める。福祉医療関係人材活用から講師を招へいし具体的な助言をもとに、より良い指導の実践に取り組む。 (→支援部、全員)</p> <p>イ-3 ファシリテーションボールを用いた「自立活動」を行い、児童生徒の自主的な感覚運動学習を促す。 (→支援部、全員)</p>	<p>(1)ア-1 10年以上の経験のある教員が研究授業を行い、「いい授業」に関する意見交換ができたか。育成支援チーム研修を活用し、「いい授業」に関する話し合いを持てたか。年度末までに、教員の考える「いい授業」についてまとめることができたか。</p> <p>ア-2 体育の授業においてラグビーの技術習得の伴い、コミュニケーション能力の向上が見られたか。</p> <p>イ-1 「自立活動」に関する教材等の収集が30件以上できたか。</p> <p>イ-2 校内研修の教員参加が90%以上あったか。</p> <p>イ-3 ファシリテーションボールを用いた自立活動を児童生徒の80%以上に行ったか。</p>	<p>(1)ア-1 10年以上経験のある教員の研究授業について意見交換をする場の設定までには至らなかったが、外部講師を招いての研修会を開き助言を元に教育活動を行なうことができた。(△)</p> <p>ア-2 体育の授業でラグビーを展開することにより、仲間を思いやる心とルールを習得させることができた。(◎)</p> <p>イ-1 全校で「自立活動」に関する教材教具を研究し共有する研修を行なったが収集と活用には至っていない(△)</p> <p>イ-2 校内研修の教員参加が90%以上であった。(◎)</p> <p>イ-3 ファシリテーションボールを教室に1つ以上設置しリラクゼーション等日ごろの活動に生かすことができた。(○)</p>
	<p>(2) 自閉症スペクトラムや発達障がい等、障がい理解に関する研究</p>	<p>(2) 発達障がいの指導に関する研修により、特性や発達段階に応じた指導を工夫し、授業のユニバーサルデザイン化を促進する。 (→研究研修部、支援部、全員)</p>	<p>(2) 保護者向け自己診断「障がい理解」の肯定率をH27(87%)より3ポイント以上上げる。</p>	<p>(2) 保護者向け自己診断「障がい理解」の肯定率が92%となった。(◎)</p>
	<p>(3) すべての生徒の連続性・系統性のあるキャリア教育の充実。 ア キャリア教育を意識した教育課程の編成。 イ 高等部卒業生の適切な進路選択・決定。</p>	<p>(3)ア-1 キャリア発達の観点を整理し、小中高と連続性と系統性のあるキャリア教育を実践する。 (→首席、全員)</p> <p>ア-2 「保育」や「いのち」学習の充実を行い、将来、養育者となる人材の知識・技術の習得を育成する。 (→家庭科)</p> <p>イ-1 教員が積極的に企業開拓を行い、実習先の拡大を図るとともに、雇用を前提とした企業の開拓をする。 (→進路部、高等部)</p> <p>イ-2 高等部3年生一人ひとりの適正に応じた進路選択を図る中で、高い就労率をめざす。また、卒業生のアフターケアにも努める。 (→進路部、高等部)</p>	<p>(3)ア-1 キャリア教育のねらいを位置づけた各教科・領域がねらい通りに実践できたか。</p> <p>ア-2 妊婦体験用モデルを用いて、児童・生徒に疑似体験をさせることができたか。</p> <p>イ-1 高等部全教員で企業開拓に取り組み、新規実習先3~5社を確保する。</p> <p>イ-2 高等部卒業学年の就職内定率30%以上を維持できたか。福祉就労を含め、生徒の希望とマッチングしたか。卒業生の就職先を訪問し、定着率を把握できたか。</p>	<p>(3)ア-1 摂津支援版キャリアマトリックスに沿って各学部の領域をねらい通りに実践できた。(◎)</p> <p>ア-2 妊婦体験用モデルを用いて「いのち」の学習をすることができた。(◎)</p> <p>イ-1 高等部全教員で企業開拓した結果、5社以上の新規実習先を確保できた。(◎)</p> <p>イ-2 高等部卒業学年の就職内定率は16%であった。今年度の離職率は例年と比べて低く、就職先が生徒の希望とマッチングしていることを把握できた。(○)</p>

<p>2 地域支援センター校</p>	<p>(1) 地域支援センター校として巡回相談や支援教育に係る情報発信をする。 ア 巡回相談と情報発信。 イ 校内支援・研修の充実。</p> <p>(2) 地域における障がい理解を推進する。 ア 地域の多くの方に摂津支援学校を知っていただく。 イ 情報発信</p> <p>(3) 「学校教育自己診断」及び、学校協議会からの助言・提言を踏まえた教育の質と内容の向上。</p>	<p>(1)ア 後継者の育成をにらんだ巡回相談と地域への情報発信をする。(→支援部) イ 校内ケース会議と心理検査等支援教育に係る校内研修の充実。(→支援部、研究研修部、全員)</p> <p>(2)ア-1 地域行事に参画し、地域のみなさまに児童生徒の作品や演奏・接客場面等を見ていただく機会を増やす。 支援室の機能の充実を図り、校内及び校外の支援を充実させる。(→指導部、全員) ア-2 本物に触れる体験学習として外部講師の活用を行い、地域における障がい理解の推進の一助とする。(→中学部・高等部) イ-1 ホームページの充実を図るとともに、地域向け広報誌の発信をする。(→総務部・情報 G、全員) イ-2 授業研究研修の実践発表・教材報告として研究紀要の作成を行う。(→研究研修部)</p> <p>(3) 学校協議会の助言・提言から浮かび上がる学校課題に対し、できるだけ速やかに改善を行う。(→全員)</p>	<p>(1)ア 巡回相談の依頼件数が H27 年度を超えたか。地域へ情報発信ができたか。 イ 校内ケース会議と校内研修の内容・回数・事後アンケートによりその効果を検証できたか。</p> <p>(2)ア-1 これまでの地域行事への参加ができたか。また、その際に作品展示や会場清掃等、新しい形態での参加ができたか。 校内及び校外の相談に対して、購入物品の活用ができたか。 ア-2 外部講師の活用ができたか。 イ-1 ブログ、ホームページ等を行事終了ごとに更新できたか。広報誌「きらめき」を定期的に発行できたか。 イ-2 研究紀要を発行できたか。</p> <p>(3) 保護者向け自己診断における肯定率 90%の項目が H27(20 項目)以上となったか。</p>	<p>(1)ア巡回相談の依頼件数は H27 年度を大幅に超え、地域への発信ができた。(◎) イ校内ケース会議については関係福祉機関と連携し開催することができた。また、発達検査についての研修会を行ない、理解を深めることができた。(○) (2)ア-1 これまでの地域行事に加え、今年度新たにコサエタンマルシェ(大阪モノレール万博公園駅内)に参加した。(◎) 検査キット等、活用はできた。次年度も引き続き購入計画を立てている。(◎) ア-2 性教育・国際理解・落語等外部講師による授業を行なうことができた。(◎) イ-1 広報紙「きらめき」は昨年度並みに発行した。ブログやホームページの更新については課題が残る。(△) イ-2 研究紀要の発行ができた。(○) (3)保護者向け自己診断における肯定率 90%以上の項目は 20 項目であった。(○)</p>
<p>3 安全・安心で居心地のよい学校</p>	<p>(1) 人権を尊重した学校づくり。 ア 人権委員会 イ 労働安全衛生委員会</p> <p>(2) 児童生徒会活動の活性化。 ア 交流活動 イ 生徒会活動</p> <p>(3) 施設設備の安全確保と学校美化。</p> <p>(4) 防災マニュアルの充実と防災教育の推進。</p>	<p>(1) ア 人権委員会を中心とした人権研修を充実し、体罰防止、ハラスメント防止等テーマ別研修をする。教職員等のメンタルヘルス研修会においても児童生徒への関わり方についての理解を深める。(→人権問題対応委、全員) イ メンタルヘルスのための研修会を開催し、より過ごしやすい職場環境の充実をめざす。(→労働安全衛生委員会、全員)</p> <p>(2) ア きょうだい学年を実施し、その取り組みを全校で共有する。国際理解教育より、異文化についての理解を深める。(→指導部、全員) イ 高等部生徒会が中心となった児童生徒会の新たな取り組みを模索する。(→指導部、全員)</p> <p>(3) 高等部生徒を中心として、農園の土壌改良や花壇の整備を行う。花を通して地域とのつながりをつくる。(→高等部、全員)</p> <p>(4) 防災マニュアルに基づく、避難訓練、防災教育、備蓄品管理、実際を想定して個人備蓄品の試食等、防災に対する教職員・児童生徒・保護者の意識向上を図る。(→防災 PT、全員)</p>	<p>(1) ア自己診断における「人権尊重」の肯定率が教員、保護者とも 90%以上あったか。 イ メンタルヘルスのための研修会に教職員の 90%以上が参加できたか。</p> <p>(2) ア きょうだい学年の実施回数と、事前予告、事後報告等、取り組みの共有ができたか。相撲部屋力士との計画的、継続的な交流が実践できたか。 イ 生徒会役員によるプレゼンテーション等、新たな取り組みができたか。</p> <p>(3) 校内にいつも花が咲いている状態を維持できたか。実習等でお世話になる事業所等に植栽する等、花を通じた地域とのつながりができたか。機器の増加により情報の授業における使用台数が増えたか。購入希望数も含めた使用が定着したか。 (4) 学校防災計画に沿った避難訓練、防災教育が実施できたか。保護者向け「防災時行動マニュアル」が年度末までに完成できたか。</p>	<p>(1) ア自己診断における「人権尊重」の肯定率が教員、保護者とも 90%以上であった。(◎) イ夏期休業中に行なったこともあり、教職員の参加は 90%に届かなかった。(△) (2) アきょうだい学年交流の実施、相撲部屋力士との交流については継続的に計画している。(2/27 実施) 国際理解教育でネイティブの外部講師を招いた授業を行なうことで異文化についての理解を深めることができた。(◎) イ全校集会を企画し、児童生徒会が中心となって取り組むことができた。(◎) (3) 花壇の整備や植栽については今年度は取り組めていない。(△) 情報機器の故障がめだち、授業における使用台数は減少した(△) (4) 学校防災計画に沿った避難訓練ができた。(○) 保護者向け「防災時行動マニュアル」の作成には至っていない。(△)</p>